

費用便益分析マニュアルの再検討

主査 谷下雅義(中央大学教授)

本プロジェクトは、交通プロジェクトをはじめ公共事業で用いられている費用便益分析マニュアルについて、その役割や国内外での動向について調査検討を行うことを目的とし、1) 費用便益分析をめぐる国内の動向の把握と2) EU での HEATCO (Developing Harmonized European Approaches for Transport Costing and Project Assessment) プロジェクト報告書(2006)の翻訳、という2つの観点から研究を行った。

前者については、本プロジェクトメンバーの国土交通省の方、毛利雄一氏((財)計量計画研究所)、朝日ちさと氏(首都大学東京)による現在の論点について話題提供の後で、「道路事業評価の考え方、分析の前提条件、便益計測における仮定等について意見交換を行った。高速道路整備における一般道路や鉄道の扱い方、環境や防災リスクなどの扱い方、地方整備局ごとの考え方の違いなどについて検討を行った。

後者については、メンバーで分担して全7章のほぼ全訳に近い抄訳を行い、TEN プロジェクトにおける費用便益分析のフレームワーク、旅行時間節約価値や時間信頼性、交通事故や環境、さらに費用項目の考え方などについて研究会のメンバーで意見交換を行い、費用便益分析は事業評価の一部でしかないこと、国別に便益の原単位となる値が推奨値として提示されていること、一般的には部分均衡アプローチがとられているが、事業の影響が広範囲にわたり地域間の衡平性が論点となりうる場合には空間一般均衡アプローチがより適切な場合があることなどについて記載がされていることを確認した。最終的な報告書では HEATCO プロジェクト報告書の翻訳を紹介する。